

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合、地理探究』では、「地理総合」で学習したことで、それを基に「地理探究」で学習したことを問う。なお、第1問と第2問は「地理総合」との共通問題として設定した。

問題の作成に当たっては、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略

第2問 『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略

第3問 学習指導要領「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」における「(1) 自然環境」と「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」における「(1) 持続可能な国土像の探究」に関する問題である。世界の自然環境と災害に関して、地形・気候・植生などに関わる諸事象について、空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察することを意図した。前半は、地殻変動様式と地震の発生傾向の地域的差異、過去の気候変動と自然災害の地形・地質的証拠や現在の気候が地形形成に与える影響、世界の気候の地域差や降雨要因などに関する問いを配置した。後半は、低緯度地域の人為的土地改変が環境に与える影響、環太平洋地域の自然災害の発生傾向の地域的差異、日本の国土像を考える上で重要となる地形による地震災害リスクの差異を考察する問いを配置した。

第4問 学習指導要領「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」における「(2) 資源、産業」に関する大問であり、学習プロセスを意識した設問形式とした。「日本の貿易の特徴とその変化」を起点としながら、世界の貿易と産業について多面的・多角的に考察する構成とし、生徒が主体的に資料やデータを集めながら学習を展開する場面を想定して問いを配置した。問1は、自然的・経済的条件によって食料自給率に生じる特徴の違い、問2は、大豆とトウモロコシの主要生産国における生産と輸出の特徴、問3は、産業構造の変化を踏まえた主要国間貿易における中間財の位置付け、問4は、日本の貿易品目の変化から見た国際分業体制の変容、問5は、国際特許出願数と技術貿易から見た知識集約型産業の特徴について、地図や統計資料などに基づいて多面的・多角的に考察することをねらいとして作題した。

第5問 学習指導要領「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」における「(4) 人口、都市・村落」と「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」における「(1) 持続可能な国土像の探究」に関する大問である。「世界の人口動態がどのような地域性を伴って変化し、都市や村落がいかなるメカニズムで形成され変容していくのか」を中核的な発問とし、世界や日本の各地域における人口・都市・村落を題材に取り上げた。問1では、世界各国における集落形態の地域性についての理解度を問うている。問2では、アジアにおける国別に見た都市化の特徴についての理解度を、問3では、合計特殊出生率と老年人口率を指標に、世界の人口動態の地域性についての理解度を、そして、問4では、先進国・発展途上国における女性の社会進

出の地域性についての理解度を判別することを企図した。問5では、日本の中規模都市の都市構造の地域性についての理解度を、問6では、日本の国土像を構想するに当たって重要となる、人口構造の全国的な変化と対策についての理解度を問うている。

第6問 学習指導要領「地理探究」の「B 現代世界の地誌的考察」における「(2) 現代世界の諸地域」に関する大問である。オセアニアの地理的な隔絶性と他地域との結び付きをテーマとして取り上げた。問1は、有袋類の生息域を通じてオセアニアの自然環境の特徴を判断する思考力を問うた。問2は、海洋から受ける影響と気候の関係を判断する思考力を問うた。問3は、食品の消費量の傾向から食生活に違いをもたらす文化的背景を推察する思考力を問うた。問4は、オーストラリアの貿易構造を通じて多様な地域との関係を判断する思考力を問うた。問5は、移民に関する統計資料から、主な移民送出国の状況とその文化がオーストラリア社会に与えている影響を推察する思考力を問うた。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第1問 (『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略)

第2問 (『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため、省略)

第3問 全体として標準的な難易度の問題であった。いずれの設問も基本的な知識を踏まえて写真、地図、統計資料を読み取って考察を行う構成となっており、おおむね難易度は標準的との評価を受けた。問1は、図の読み取りと活断層型地震と海溝型地震に関する学習知識を組み合わせる形式となっており、難易度はやや高いが、思考力が必要とされる良問であるとの評価を受けた。問2は、世界の各地の自然環境の影響を受けた巨石の分布に関する問いで、巨石を取り上げたユニークさが評価された一方、写真なしでも解答可能であるとの評価を受けた。問3は、気候因子に関する知識を基に、各都市の気候の特徴について考察する良問との評価を受けた。問4は、インドネシアにおける開発と環境変化に関する図の読み取りと、環境問題について考察する問いであり、題材が評価された一方で、正答そのものは資料と関係していないとの評価もあった。問5は、三つの国・地域の災害の被害に関する資料を読み取り、自然環境や社会環境に関する知識を関連付けて災害の地域性を考察する良問であるとの評価を受けた。一方で、解答は比較的容易であるとの評価もあった。問6は、図の読み取りや小地形ごとの災害リスクについての知識を基に、地震に対する小地形ごとの脆弱性について考察する良問との評価を受けた。一方で、受験者にとって初見の資料については、受験者が困惑することのないような配慮が必要であるとの指摘を受けた。引き続き、高等学校教育の学習実態に即した表現・形式に留意して注釈を加えるなどの工夫に努めたい。

第4問 大問全体として、標準的な難易度であるという評価を受けた。問1は、資料を読み取り、地理的条件に関する知識を基に、各国の農水産業の特徴を考察する良問と評価を得た。問2は、難易度の評価は分かれたものの、両国の近年の動向をおさえていれば判断は容易とのことである。問3は、共通テストらしい問い方であるが、中間財の具体的なイメージや近年の貿易事情を把握していないと判断に時間を要するやや難易度の高い問題との指摘があった。問4は、資料中の用語理解が進むような表現が必要との指摘があった。問5は、グラフと地図の複数の資料から知識集約型産業の地理的特徴について考察する共通テストらしい良問という評価を得た。全体として、資料の読み取りと地理的事象に関する知識を組み合わせ、地理的思考力を活用しながら多面的・多角的に考察する大問になっており、資料・文章量・難易度ともに適切なものと評価された。今後は、出題形式や難易度のバランスに配慮しつつ、産業構造の高度化による立地原理の変化を的確にとらえたバランスの良い出題を心掛けたい。

第5問 全体については、村落・都市と人口に関して、様々な図や資料を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や空間的相互依存作用などに着目して、諸事象を多面的・多角的に考察する問題で構成されているとの評価がある一方、統計数値を読み取る小問が多く、多様な地理的見方・考え方に基づく問い方が必要であるとの指摘もあった。問1は、基本的な問題であるとともに、景観写真を取り入れた点が評価された。問2は、三か国の違いも明瞭で時間を要さないという点が、問3は、東アジアの少子化という現代的な変化を問うていた点が、問4は、女性の労働力率というジェンダーを意識した問いである点が評価された。一方で、いずれの問いも、旧センター試験のような印象を受ける形式であると指摘された。問5は、三つの都市の特徴について、統計数値や説明文から明確に判別できる良問であると評価された。問6は、文章と語句選択について工夫をしてほしいという指摘があった。こうした評価を踏まえ、今後、出題形式や資料の提示方法にも配慮しつつ、思考力を問うことのできる問題作成に努めたい。

第6問 オセアニアとその周辺地域に関して、多様な資料を読み取り、対象地域に関する知識を基に、この地域における様々な地理的事象の共通性や多様性、結び付きを問っているとの評価を受けた。問1は、オーストラリア大陸周辺における生物の生息域や大陸棚を示した地図図を読み取り、大地形に関する知識を基に、陸域の変化を考察するユニークな内容の問題と評価された。問2は、四つの地点における雨温図を読み取り、気候因子に関する知識を基に、各地点を判断する問題と評価された。問3は、各国の食生活の差異を考察する問題で、なじみの薄い国を扱ってはいるが、受験者が考察するための手掛かりが得られる問題との評価を得た。問4は、オーストラリアの輸出入額の推移を国別に示した図を読み取り、国際情勢の変化やその歴史的背景に関する知識を基に、貿易相手国の変遷を考察する良問と評価された。問5は、オーストラリアへの新規流入移民について、五大都市またはその他の地域に流入した割合を示した表を読み取り、アジア系移民の集住地の傾向と、19世紀の都市形成過程における都市構造を考察する良問と評価されたが、統計数値の差が些少であった点や、用語の定義が明確ではなかった点などは解答への配慮が十分でなかったと指摘された。全体的に難易度は標準的であるが、さらに地理的見方・考え方を働かせて、現代の諸事象の本質や課題を見抜く問いを目指すように指摘を受けた。地理的な課題の解決に向けて「構想する力」を問えるような作問となるようさらに工夫を行いたい。

4 今後の問題作成に当たっての留意点

- (1) 問題作成の基本的な考え方及び問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を測定するための良問で構成されているとの評価を得た。場面設定型の問題では、テーマに沿って探究的に学習が展開されるなど地域調査の進め方が意識されており、学校現場における授業展開の参考になる部分が大きいと評された。一方で、各小問間のつながりが見えづらいものもあるという指摘があった。テーマ間の多様性や資料・出題形式のバランスに配慮しつつ、大問の中でのストーリー性を意識するとともに、地理としての意義やコンテンツ、そしてコンピテンシーに留意した問題作成に取り組んでいきたい。
- (2) 全体として適正な難易度と評価された。また、全体として標準的であるだけでなく、比較的易しい小問から比較的難しい小問までバランスよく設定されているという評価を得た。ただし、判断に時間を要する問題も見られたという指摘もあった。今後も適切な難易度の問題作成を引き続き目指したい。
- (3) 全体として、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識、技能や思考力、判断力、表現力などを発揮して解く問題となっているという評価を得た。また、従来よりも画像が見

やすくなっているという評価がある一方で，識別しづらい図があったことも指摘された。地図やグラフ，写真といった多様な資料を利用する地理だからこそ，これらの表現の工夫を高め，他教科の手本となるような資料の作成も進めていきたい。

- (4) 出題する地域やテーマの選定・配置に関するバランスに対しての指摘はなく，適切であったと思われる。ただし，解決までのプロセスがわかるような大問や「まとめ」のある大問，動態地誌・比較地誌をテーマとした大問の作成要望があった。これらの要望に応えつつ，初見となるテーマや資料であっても提示方法を工夫することで，受験者が適切に読み解け高等学校等で身に付けた資質・能力を測る問題作成を目指していきたい。
- (5) 全体として，学習指導要領の趣旨に沿っており，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは，資料の提示や出題バランスなどについておおむね評価を得られたといえる。ただし，昨年度よりも構想力が弱まったという指摘もあった。与えられた資料に対して受験者が学習してきた知識を基に地理的な見方・考え方を働かせる，適正な難易度・分量・形式で出題する努力を続けていきたい。